

科目名	産業社会論			ナンバリング	SOC351	授業形態	講義
対象学年	3 年	開講時期	前期	科目分類	選択	単位数	2 単位
代表教員	土谷幸久	担当教員					

授業の概要	製造企業は販売する企業に製品を委託し販売してもらう。また両社は金融機関から借入れをして、材料費に充てている。このように産業界は、人間社会と同じく関係性―取引連鎖―の中にある。かつてフォードは窓枠用の木材のために森林を所有していた。つまり、同社は、可能な限り外注に頼らない方針であった。しかし、現代においては、そのような企業はほとんどない。多くは、本業に特化して、必要な物や財、サービスを市場内取引か組織間取引で調達している。多角化した企業においては、複数分野の企業と多角的に関係していることが想像できるであろう。 関係性を持った関係体という立場から企業群を捉えるとき、複数の企業で一個の単位体を構成していると捉えることができる。そして最終的には消費者と関係付けられなければならない。このように産業界は濃淡はあるが、何れも互いに関係性がなければ成立しない。そこでこの授業では、社会に出る学生諸君の準備として、仕事上の結びつきから企業社会というものを考えることを目的とする。						
到達目標	人間社会の互いの関わり合いと同様に、企業社会の成立には企業間の取引関係を理解することを目的とする。その関係とは互いを利する関係でなければならない。両社の関係・取引を成立・継続する中に、自社の発展がある。その中で、消費者や地域との関係が最も大事であり、他社、地域を考えると、多くの企業が経営理念として信頼や信用を上げることも首肯できる。また行動指針として取引関係の継続化や、「三方良し」など両者・三者の満足関係の構築を挙げる企業も多い。すなわち、市民社会と整合しなければ産業社会は受け入れてもらいないという足枷があるのである。将来社会に雄飛する学生として、これ等のことを理解することを目的とする。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	事前にプリントを配る場合は、予習をしておくことが望まれる場合なので、予習すること。そうでない場合も、復習は必ず行うこと。新聞、雑誌等の経済記事は毎日、毎週読むこと。						
ディプロマポリシーとの関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
		1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
		2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
	○	3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
	○	5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
少なくとも授業で提示した企業・業界においては、人間社会と同様の関係性の中で個々の企業活動が可能になっていることを理解できる。	関心のある業界において川上と川下の関係を説明できるようになること。関心のある企業が活動するために、関連他社と如何なる関係にあるかを説明することができる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)		○	○	○			30%
小テスト・授業内レポート	○		○				10%
宿題・授業外レポート							
授業態度・授業への参加			○	○			20%
出席							
ノート	○	○		○			40%

課題、評価のフィードバック	授業態度で特に求めたいことは、質問し議論に参加することである。質問者、理解者、教師の3者関係で授業進行を図りたい。定期試験は自筆のノートと授業中配付するプリントのみ持ち込み可。ノートさえとっていれば極めて簡単な問題一題のみの試験。その後、ノートを提出してもらい、双方を採点する。ノートは成績を付けた後返却する。
---------------	--

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	ガイダンス	日本語の中の「We」と正木屋材木店の(B to C B')。小名浜菜園といわき。	2社のHpを見ておくこと
	第2回	シンテック	同社は技術はあるが小さな会社である。そこで大学や他社と協力して大きな仕事をしている。その連携を学ぶ。	
	第3回	常磐炭礦後継会社群	組織文化や経営理念を継承しつつ分解・誕生した企業群について次回以降の講義のために解説する。	『いわき市史別巻、常磐炭田』を予習すること
	第4回	常磐興産	興産はハワイアンズ以外の仕事もしている。その別の仕事について学ぶ。	同社のの企業情報をHpで予習すること
	第5回	常磐製作所	EMIに徹した同社は、実は隠れたNo.1企業であることを学ぶ。	KYBIについて予習すること
	第6回	開発会	常磐開発の協力は約100社からなっている。その中核企業について学ぶ。	
	第7回	遠野興産と永大小名浜	両社の関係について学ぶ。	パーティクルボードについて調べておくこと
	第8回	東洋システム	同社の取引先にはどんな会社があるのか、また将来性について考察する。	バッテリーバレーについて調べておくこと
	第9回	障害者雇用	幾つかの企業は障害者雇用を積極的に行っている。これも産業社会の1つである。常磐パッケージの例で考える。	ハニーズハートフルサポートについて調べておくこと
	第10回	CGC	CGCとは中堅スーパーが、大手スーパーに対抗するために、共同で商品開発・販売を行うための組合である。	ヨークベニマルとマルト、リオンドールの品揃えについて調べること
	第11回	商社・問屋	福島県の建設資材商社と菓子問屋について学ぶ。	いわきに関して新産業都市と工業団地について調べておくこと
	第12回	プラント建設	いわきには幾つかプラント建設業者がある。その背景を学ぶ。	新産業都市指定から工業都市となった歴史について調べておくこと
	第13回	日本デリカフーズとリパティフーズ	単位体化した企業間関係の例を同組合で考える。	「チームMD」を読んでおくこと
	第14回	商品開発	商品開発における企業間関係について考える。	
	第15回	まとめ：振り返り	対人関係に関して抱く価値観と同じく、企業間関係は信頼を基礎に共存共栄を誠実に実行する、1つの社会になっているということを振り返る。	
	試験	自筆のノートと授業中配付したプリントのみ持ち込み可。その他は持ち込み不可。範囲は全範囲。難易度はノートを毎回取っていた学生にとっては極めて安易なレベル。試験終了時にノート提出のこと。採点対象とする。後日、研究室まで取りに来た学生には返却する。		
授業の進め方		講義と質疑応答、議論。リフレクションペーパーでの質問は極力全て答える。		
授業外学習の指示		配布資料は必ず復習すること。予習に関しても、提示された課題は必ず次回までに行わなければならない。 （授業外学習時間： 毎週 90 分）		

教科書	プリントを使用する。
参考書	適宜指示する。
参考URLなど	備考欄に示したもの以外は、その都度適宜指示する。
その他	